JSSD

２０１９年　定時社員総会　資料（議案書）

（報告事項）　2019 年度　活動方針 1

第１号議案　2018 年度　事業報告 2

第２号議案　2018 年度　収支決算報告 13

（報告事項）　2019 年度　委員会等一覧 17

（報告事項）　2019 年度　日本デザイン学会組織 19

（報告事項）　2019 年度　事業計画 20

（報告事項）　2019 年度　予算 26

一般社団法人　日本デザイン学会

2019 年度活動方針

会長：松岡由幸

2016–2018 年度の振り返り

この 2 年間は，「学会創設 100 年に向けて，今なすべきこと」という視点から，法人化対策特別委員会の先導のもと，法人化の遂行を活動の軸にすえて活動した．合わせて，法人化後を見据えて魅力向上委員会を設置し，以下を実施した．

ⅰ）体制基盤の構築

・法人化の完遂．
・法人化後の会則・諸規定に準拠すべく，運用上のやり方を一部見直し（総会の進行，理事会の成立に向けた SKYPE 導入など）．
・事務局体制を 2 名体制化．

ⅱ）学術基盤の構築

・特集号を刷新．
・論文集・作品集の完全 web 化に移行．
・国際論文集“Journal of Science of Design”発行．
・上記に合わせて，和文・英文論文集ともに，執筆要領と投稿規定の改定を実施．
・「デザイン科学事典」の編纂．

ⅲ）活性化策の推進

・芸術工学会，意匠学会，道具学会，基礎デザイン学会との合同による「デザイン関連学会シンポジウム」を提案・実施．
・機械工業デザイン賞（日刊工業新聞社主催）に「日本デザイン学会賞」を設置．
・若手会員を対象にした会長賞を制定．
・会員の出版物を紹介するホームページを追加．

2019 年度活動のエスキース

以下の 3 つの活動を目指す．なお，2018 年度より法人化対策委員会および魅力向上委員会を廃止し，これらの活動を通常の理事会・運営会議のなかで進めていく．

(1) 対象領域の拡大

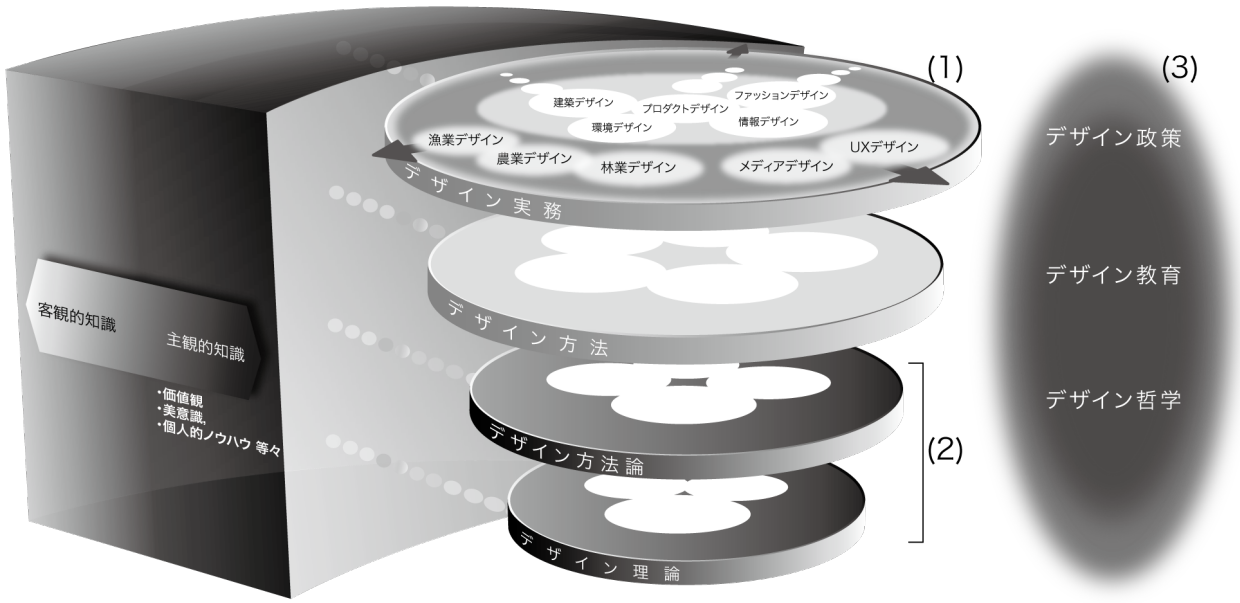
・メディア，インタラクション，UX などの領域の取り込みと，それに伴う会員数の増加．
・農業デザイン，漁業デザインやそれらの 6 次産業にむけたトータルデザインの推進とその産業化への貢献．

(2) 研究・教育基盤の向上

・学会としての特徴を活かし，如何にデザインするか（How 問題）のみならず，何をデザインすべきか（What 問題）というデザイン哲学に関する議論の促進．
・英文誌の学術水準の確保と審査期間の短縮，および広報による国際的認知度の向上．
・「デザイン科学事典」などの事典類の編纂・発行．
・上記教材を用いた講習会，セミナーなどの実施による学術基盤の向上とその事業としての財政確保．

(3) 他団体との連携強化

・IASDR 等々による国際連携の促進．
・「デザイン関連学会シンポジウム」の推進．
・「Design シンポジウム」の実施．
・関係省庁・団体との連携によるデザイン政策の推進．
・産官学+民の連携強化（大会での市民講座，リカレント教育など）による社会的貢献と学会の知名度向上．
・高校（全国高等学校デザイン教育研究会との連携）や専門学校の参加促進とそれに伴う会員数増加．



<デザイン知識>　　<デザイン行為>

2018 年度活動のエスキース

第１号議案

2018 年度　事業報告

論文審査委員会

委員長　久保 光徳

2018年度の投稿論文数は，英文誌“Journal of Science of Design”では32件，和文誌『デザイン学研究』では33件となった．掲載件数には，論文24件（英：13件，和：11件），論説２件（英：１件，和：１件），報告25件（英：9件，和：16件）となっている．ご投稿いただいた会員の皆様に御礼を申し上げる．

また今年度も多くの先生方に論文審査にご協力いただき，大変貴重なご意見やご指摘をいただきましたこと，この場をお借りして深く感謝申し上げる．

※以下のご協力いただいた先生方記（敬称略、順不同）

Ahmad Aziz Hafiz, Chang Wei-Chi, Chang Ikjoon, Chen Li-Hao, Chen Tien-li, Chiao Lin-Hao, Cruz Guerra Guerra Christian, Eom Jeong-Sik, Hung Chi-Sen, Li Shu Lu, Loh Wei Leong, Tsai Tung Jen, Vesna Popovic, Wang Chao-Ming, Wang Hung-Hsiang, Wu Pei-Fen, Zhang Jue, 蘆澤 雄亮, 池田 岳史, 石橋 圭太, 伊豆 裕一, 伊藤 孝紀, 伊藤 俊樹, 伊原 久裕, 今泉 博子, 植田 憲, 岡田 明, 小川 直茂, 小野 健太, 加藤 健郎, 姜 南圭, 清須美 匡洋, 桐谷 佳惠, 金 正和, 工藤 芳彰, 久保 光徳, 久保田 善明, 小山 慎一, 近藤 祐一郎, 佐藤 公信, 佐藤 浩一郎, 佐藤 弘喜, 下村 将基, 白石 光昭, 曽我部 春香, 曽和 英子, 曽和 具之, 田中 佐代子, 田中 法博, 玉田 真紀, 寺内 文雄, 中本 和宏, 永盛 祐介, 生田目 美紀,
野口 尚孝, 野田 勝二, 八馬 智, 浜田 百合, 林 孝一, 樋口 孝之, 平尾 章成, 平田 一郎, 平田 光彦, 前川 正実, 三橋 俊雄, 宮崎 大輔, 村松 慶一, 柳澤 秀吉, 山内 貴博, 山本 政幸, 吉岡 聖美, 渡辺 慎二

作品審査委員会

委員長　杉下 哲

「デザイン学研究 作品集 24 号（2018)」は，作品 20 件（内 6 件作品ムービー添付）の掲載を，J-Stage で電子刊行した．全投稿数は 31 件で，採択率は 65%であった．今回採録にいたらなかった作品も含め，多くの投稿に感謝する．以下の URL にアクセスして閲覧できる．

https://www.jstage.jst.go.jp/browse/adrjssd/24/0/_contents/-char/ja

募集・審査・編集・刊行の経緯は，6/22 春季研究発表大会などでの作品募集の告知に始まり，8/31 投稿受付終了，9/10～10/9 第 1 次審査，11/19～12/10 第２次審査を経て，12/21 著者への採録結果通知を行った．1 月下旬に編集内容協議して正文社へ刊行作業を依頼し，2 月に正文社からの校正依頼や学会事務局からの掲載料請求が著者へされ，校了を経て，3 月上旬に正文社から刊行作業終了の報告を受け，3/19 に J-Stage 上で刊行した．複数回に審査いただいた専門審査委員の方々，募集から審査，編集までのプロセスを担った本委員会の委員と幹事のみなさまへ感謝する．

なお、今期（2018－2019）に際して 2018 年度は，前期から引き継ぐとともに，学会 web サイトの作品投稿案内の整理など，より投稿し易い仕組みづくりに努めた．

学会誌編集・出版委員会

委員長　井口 壽乃

2018 年度の特集号は，計画していた企画の編集作業が大幅に遅れたため，2019 年度に計画していた企画と順序を入れ替えた．26 巻 1 号（99 号）「QOL＋（プラス）を考える」（担当：赤井愛）が年度末に刊行することができた．会報は予定どおり刊行された．今後，特集号の各企画者は刊行に向けて一層の努力をお願いしたい．委員：井口壽乃，加藤三喜，幹事：伊原久裕，田中佐代子．

研究推進委員会

委員長　小林 昭世

研究推進委員会の活動は，1 研究部会の活性化 2 春季研究発表大会のテーマセッションの運営 3 秋季企画大会における企画運営などである．

2018 年度は以下の活動を行った． 1 研究部会を会員の活動の基盤の一つとするために，活動中の研究部会と活動休止中研究部会、活動していない研究部会の区別を規則について理事会で審議した．また、春季研究大会のテーマセッションにおいてキーノート講演を実施することとした．農業デザインに関する研究部会が設立された．この研究部会の特徴は農業の産業(工業)化，サービス・流通化という第二次産業，第三次産業の面も含め農業デザインを広く研究対象とすることである．

2 大阪工業大学で開催された春季研究発表大会『"デザイン"の時代』(宮岸幸正大会委員長）にてテーマセッションを開催した．3 九州大学で開催された秋季大会「平成のデザイン／次代のデザイン」

（森田昌嗣委員長）において，学生プロポジションを開催した．

なお，研究推進委員会は企画委員会と連携のもとで活動を行なった．

2018 度理事･幹事: 蘆澤 雄亮 柿山 浩一郎

企画委員会 総合企画

委員長　岡崎 章

2018 年度の企画委員会（総合企画）では，例年同様，春季と秋季の大会実施に取り組んだ．第 65 回春季研究発表大会は，地震の影響があったが，「“デザイン”の時代」をテーマに大阪工業大学 梅田キャンパスにおいて開催した［６月 22 日(金)～6 月２４日(日)］．

秋季企画大会は，「平成のデザイン／次世代のデザイン」をテーマに九州大学 大橋キャンパスにおいて開催した［10 月 12 日（金）～14 日（日）］．学生プロポジションは，13 日 13:00～14:00（多次元デザイン実験棟）で実施し，全国から 17 校 44 件のポスター発

表が行われ，企画委員他による審査委員により優秀賞 14 件を選出した．

企画委員会 支部企画

委員長　平松 早苗

新しい支部企画の検討のため，平成 20 年（2008）～平成 29 年（2017）までの各支部の活動記録を学会 HP より調査した．主に支部大会の開催や展示など，学生の実績公表方法について調べた．その方法は概要集の作成や学会 HP 上への記載など,各支部によって異なる現状がある．

2018 年度の支部企画は調査にとどまったが，第 2 支部企画として実施の「教育成果集」小冊子を，全支部対象の企画として引き続き検討を進めたい．

教育・資格委員会

委員長　佐藤 浩一郎

2018年度の学会活動方針の１つである「研究・教育基盤の向上」のもと，学会各委員会と連携し，具体的な施策の計画・実行のための準備を進めた．2018年度は，論文審査委員会やデザイン理論・方法論研究部会等と検討を重ね，講習会やセミナー実施の可能性について議論を進めた．その結果，支部企画とも連携を行い，デザイン学における教育や研究に関わるニーズの抽出と現状把握を行うこととなった．引き続き，デザイン学領域における教育・研究の質的向上を高めるプログラムを企画していく．

広報委員会

委員長　大島 直樹

2018 年度は学会 Web サイトに 80 件のニュースやイベント記事の投稿があった．内訳は，支部・部会・委員会による投稿が 48 件で全体の 60%，本部事務局による投稿が 32 件の全体の 40%であった. 2017 年度の支部･部会･委員会と本部事務局による投稿件数の比率はそれぞれ 38%と 62%であった．このことから，2018 年度は 2017 年度と比べて支部・部会・委員会と本部事務局との投稿比率が逆転したことがわかる．支部・部会・委員会による投稿が活性したことがわかる.また 2017 年度より開始した「会員の著書」の掲載は，新たに 4 件の追加掲載した．

財務委員会

委員長　生田目 美紀

2018年度の学会一般会計の収入は，およそ3,700万円であり，繰越金を除いた収入に対する会員の会費収入は約70%を占めている．また，支出においては，本部事局経費が約40%，学会誌編集出版関連経費が約30%を占めている．

こうした状況下，財務委員会の使命は，新たな財源の確保や支出の圧縮を進める事であるが，収入増につながる新会員の加入促進については，論文発表を含めた学会の魅力とも大いに関係しているため、他の委員会との情報交換を開始した．

公認会計士事務所の監査による法人法を遵守した会計システムへの移行は順調に進んでいるが，今後とも会員の皆様におきましては，法人法に沿った適正な会計処理の徹底に向けてご支援とご協力をよろしくお願いいたします．

市販図書企画・編集委員会

委員長　加藤健郎

昨年度は，デザイン学会編「デザイン科学事典」（丸善出版）の編集を，松岡由幸会長（同事典編集委員長）のもと，進めてきた．現在，最終の査読・校閲作業を進めている．本書は，平成 31 年 10 月に刊行される見込みであり，今後とも関係者の皆様方にご協力願いたい．

2018年度 春季研究発表大会実行委員会

実行委員長　赤井　愛

日本デザイン学会第65回 春季研究発表大会（大会委員長：宮岸幸正）は 2018 年６月22 日(金)～ 24 日(日)，大阪工業大学梅田キャンパスを会場に，大阪工業大学の共催で行われた．３日間の参加登録者は581名（うち来場者 470 名）となった．

大会テーマは『“デザイン”の時代』とし,「これからはデザインの時代や」という言葉に象徴されたものづくりの時代を経て，拡がり続ける“デザイン”の概念や役割を今一度見つめ直し，将来に向け問いかけていく機会にしたいと考えた．また，デザインの多様性や環境との共生などの意図を込め，開催地にほど近い淀川水系のナマズとその体表の模様を大会のメインモチーフとしている．

大会初日は宮岸幸正 大阪工業大学副学長，松岡由幸 日本デザイン学会会長の開会の辞とともにスタートした．

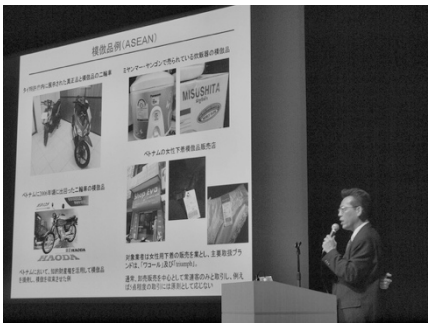
開会式：宮岸大会委員長

基調講演には中台澄之氏（株式会社モノファクトリー代表取締役）をお招きし，『“捨てる” をデザインする ―循環を前提としたモノのトレーサビリティー』というテーマでご講演いただいた．製品を生み出す際に必要とされることの多い“デザイン”だが，その製品が捨てられ，最終的に埋め立てられるまでの時間，距離をどう延ばすか，その一つ一つの過程を我々はどのようにデザインし得るかということについて，様々な事例をまじえてお話しいただいた．

基調講演後の特別セミナーとして山田繁和氏（大阪工業大学知的財産研究科特任教授）による『デザイン開発とデザイン保護』を実施した．知的財産権によって，製品のデザインを模倣か

基調講演（中台澄之氏）

ら守り，製品及び企業ブランドの構築に役立てている最新の事例紹介を通して、デザイン開発契約や知的財産権による保護のあり方について考える機会とした．



特別セミナー（山田繁和氏）

エクスカーションは水都大阪を船で巡る『若手落語家と行くなにわ探検クルーズ』を予定していたが，6 月18日に起きた大阪北部地震の影響を鑑み中止とした．

第２日目、３日目は、269件の研究発表と４つのオーガナイズドセッションを実施した．口頭発表では18分野に加え，６つのテーマセッションが設けられ，180件の発表があった。地震の影響による発表者の不参加が各セッションに見られたが，代理発表の他，動画による発表やSkypeを活用した質疑など様々な工夫により，活発な議論が行われた．

ポスター発表は89件となり，９階イノベーションラボにて２日にわたり実施された．スペースに比較的ゆとりがあったことから，家具などの大型作品を展示する発表者もあり，会場の周囲に配置された椅子に座り熱心に討議する姿も見られた．

オーガナイズドセッションは下記４テーマを実施した．

OS-A「AR・VR・Remote Surgical・3D Rapid Prototyping を利用したデザインからの医療への新しいアプローチ：次世代の診断・治療への利用」（オーガナイザー：國本桂史）では，医療・ヘルスケア現場での新しい対応，医療技術、医療デザインの研究・開発の新しい事例や，先駆的AR技術・VR技術そしてそれらを応用した医療の新しい事例などの報告と共に，これからの医療・ヘルスケア分野でのデザインの在り方，そして臨床医療領域での応用などについて議論がなされた．

オーガナイズドセッションA

OS-B「タイムアクシスデザイン(TaD)維新は新たな地平を拓くか？」（オーガナイザー：松岡由幸）では，タイムアクシスデザインについて，デザイン理論・方法論においてはサービスデザインをまじえて使えば使うほど価値が増大する価値成長デザイン，環境デザインでは景観デザインや公園デザインなど，分野横断的な視点から事例紹介や状況、共通の課題や方法論について議論された．

オーガナイズドセッションB

OS-C「“デザイン” の時代 ― QOL＋（プラス）を考える」（オーガナイザー：赤井愛、朽木順綱）では，QOLという概念をより広い観点から捉え直す試みとして「QOL＋（プラス）」と再定義し,QOLを「人間の“姿” から見る」「“社会” から見る」「“霊長類” から見る」そしてそもそも「“見る／みる” とはどういうことなのか」という４つの視点から議論がなされた．

オーガナイズドセッションC

OS-D「サービスデザイン／ソーシャルデザインの深耕と展_．開」（オーガナイザー：山岡俊樹）では，サービスデザインとソーシャルデザインの基本的な考え方，デザイン方法及び事例を紹介し,そこから両デザインの相違点，類似点を明確にするとともに，両者の深耕と展開，及び学会での取り組むべきベクトルについて，パネリスト，来場者と共に議論された。

オーガナイズドセッションD

懇親会は23日（土），同キャンパス21階「リストランテ翔21」にて行われた．泉州水茄子や河豚，串カツなど，「粉もん」だけではない大阪の食を用意し，約150名の参加者を迎えた。今年度より新たに設けられた会長賞の授賞式も，この場にて行われた。折よく雨も上がり，大阪の街を一望できるテラス席で眺望を楽しみながら親睦を深める姿が見られた．

懇親会での会長賞表彰式

また，今大会の試みとして，１階ギャラリーにて協賛企業を中心に，大阪を中心とする企業,団体によるデザイン，ものづくりの事例を展示し，一般の方

にもご覧いただける企画展示を実施した．10階口頭発表フロアの企業展示では8 社の展示があった．口頭発表会場と隣接させることで企業と参加者の活発な交流を図ったが，やや手狭な印象であり，動線にも積極的な工夫が必要であったと感じている．

最後になるが，本大会の特筆すべき報告事項として，先述の6 月18日の大阪北部地震発生が挙げられる．地震発生後，松岡会長を中心に，新旧理事の方々により大会実施の可否及びそれに付随する事柄について審議が重ねられた．会場となる梅田キャンパスは2017年竣工であり，最新の制震構造により構内の被害がほぼ無かったこと，地域の防災拠点としての機能を有していることなども考慮され，エクスカーションを除く全てのプログラムの実施が決定された。実行委員会は限られた時間の中､構内の安全確認､不参加の受付，様々な問い合わせへの対応に加え、会場の避難経路などを記載した「災害時行動マニュアル」を作成し参加者へ配布するなどして対応した．これらの動きについては，実行委員会が発足当初から事務系職員を交えた構成となっており，実行委員会と学部事務室間で大会運営に関する情報を共有出来ていたことが，結果として会場全体の迅速な対応につながったと考えている．そして，この地震は想定外の出来事と思われたが,その後西日本豪雨,台風21号，北海道胆振東部地震と立て続けに大きな自然災害が起きており，通常の大会準備に加え，幹事校として防災面の準備を進めておくことの必要性を改めて痛感している．

このような状況において，学会員の皆様には多数参加いただき,出展企業･団体の皆様には開催に向け様々なかたちでご協力をいただき，今回参加を見送られた方々からも，たくさんのお気遣いのメッセージをいただいた.また，松岡会長はじめ理事会，本部事務局の皆様にも絶大なるご支援をいただき，幸い会期中は懸念された余震もなく，盛況のうちに終えることができた．心より御礼申し上げると共に，会員の皆様の益々のご発展を祈念し，開催報告としたい．

2018年度
秋季企画大会実行委員会

実行委員長　伊原 久裕

2018 年度日本デザイン学会秋季企画大会は，2018 年 10 月 12 日（金）から 10 月 14 日（日）の日程で，九州大学 大橋キャンパスを会場として，第 5 支部研究発表会と同時開催のかたちで開催され，約 220 名の参加があった．

大会のテーマは「平成のデザイン／次代のデザイン」である．平成期が終わろうとしている現在, 20 世紀が積み残してきた社会の多様で複雑な課題に直面している．デザインには，課題の要因を見極め，社会のニーズを明らかにし，課題解決の糸口を多面的，俯瞰的に探り,具体的な方向性を導き出し，提案・検証する本来の役割，すなわち創造プロセスのあらゆる段階への関与が求められている．このように，デザインに対する社会的な役割や期待が高まる中，デザイン教育・研究・実践の現場に身を置く私たちは，デザインの概念と方法論を再検討する必要がある。そこで本大会では，平成のデザインを総括して未来（次代）のアクションに向けたデザイン教育・研究，そして実践のアプローチを探る新たな議論の場を創出することを目的とした．

主なプログラムは，以下であった。
①基調講演:株式会社意と匠研究所 代表 下川一哉氏により,「デザインで問題解決と価値創造を目指すプロデュースの実践」をタイトルとして，プロデュース・メソッド「デザインプロデュース概論～問題解決と価値創造の 5 Steps」の紹介､本メソッドを応用して，日本各地で商品開発に取り組んでいる事例紹介などをもとに基調講演が行われた．

下川一哉氏による基調講演の様子

②パネルディスカッション：
後藤 萌氏（株式会社電通 CDC / Dentsu Lab Tokyo），佐々木剛二（株式会社日立製作所 研究開発グループ 東京社会イノベーション協創センタ），高須 学氏(株式会社タカスガクデザイン アンド アソシエイツ），上岡玲子氏（九州大学大学院芸術工学研究院）の 4 名をパネリスト，下川一哉氏（株式会社意と匠研究所）をディスカッサンタント，森田昌嗣先生（九州大学大学院芸術工学研究院）をモデレーターとし，「『平成のデザイン／次代のデザイン』をめぐって」をタイトルとして，各者の専門領域の観点から平成のデザインを総括するとともに,未来(次代）のアクションに向けたデザイン教育・研究，そして実践のアプローチを探った．
③ライトニングトーク : 会員 11 件、非会員 4 件の発表があった。3 名が 5 分ずつ連続して発表し，その後，3 名に対して Google フォームを利用しながら 10 分程度の質疑応答を行った．

パネルディスカッションの様子

ライトニングトークの様子

④学生プロポジション：デザイン学研究の普及を目的として,10 月 13 日(土)，多次元デザイン実験棟を会場として実施した．全国 17 校から参加した 44 名がポスター発表を行い，活発な質疑応答や意見交換が行われた．厳選なる審査の結果，15 件に優秀賞を授与することになった．なお，第 5 支部では，本

企画を，前年度まで開催されていた第5 支部学生デザイン展の代替行事と位置づけていた．担当：岡崎章，加藤健郎，秋田直繁，迫坪知広。

学生プロポジションの様子

⑤第5支部研究発表会:10月13日(土)，14日（日）の二日間，午前9時から正午の間に開催した（詳細は，第5支部活動報告の項を参照）．

⑥懇親会：10月13日（土）午後6時から，2018年9月に竣工した「デザインコモン（学修支援施設）／GEIKOラウンジ（食堂)」にて，第5支部研究発表会との合同による懇親会を開催し，70余名の参加があった．参加者相互に交流，研究内容等に関する情報交換や親睦を深めた．

懇親会の様子

■大会委員長：森田昌嗣，大会実行委員長：伊原久裕，大会副実行委員長：田村良一，実行委員：秋田直繁、麻生典，池田美奈子，尾方義人，金大雄，清須美匡洋，迫坪知広，下村萌，杉本美貴，曽我部春香，田北雅裕，藤紀里子，平井康之，松隈浩之，松前あかね，LOH Wei Leong（以上、九州大学）

■2018 年度秋季企画大会 Website: http://www.design.kyushu-u.ac.jp/~jssd18f/

学会各賞選考委員会担当

担当理事　山中 敏正

昨年度の学会各賞選考結果を，ご報告いたします．

＜年間論文賞＞

該当無し

＜年間作品賞＞

該当無し

＜功労賞＞

以下の３名の先生方が受賞されました．

・荒井利春

・中嶋猛夫

・長谷高史

なお，昨年度の度学会各賞選考委員会の構成は，以下の通りです．

委員長：青木弘行

委員：山中敏正，庄子晃子，杉山和雄，

原田昭，松岡由幸，宮崎清，宮内悊，森典彦

Design シンポジウム担当

担当理事　小林 昭世

日本デザイン学会をはじめ，デザイン・設計への関心を共にする日本機械学会，精密工学会，日本設計工学会，日本建築学会，人工知能学会により，デザイン・設計領域における知を総合する目的で会議を隔年開催している．

2018年度は，日本デザイン学会が幹事として2019年度に慶応義塾大にて開催する会議を準備した．本学会からの委員は，松岡由幸，加藤健郎，小林昭世，永井由佳里，小野健太．

IASDR担当

担当理事　山中 敏正

IASDR2019 Manchester Metropolitan University 大会に向けての準備を進める年であった。

Lin-Lin Chen会長のもとでの第1回の理事会を4月16日にオンラインで開催し、会長の方針、2017年大会の開催結果や財務状況などを確認した。また、KSDS から選出の理事 Byung-Keun Oh 氏の承認を行った．

2018年1月に発覚した，IASDR.orgの乗っ取られ事件に対応した新しいweb: https://iasdr.net の運営状況について報告があった．また，2019年の運営体制について議論し，web の開設方針などを確認した．

その後 IASDR2019 の準備を進め,CFPを出し，2019年4月に論文投稿を締め切った．

日本学術会議 第一部/人文・社会科学

担当理事　小林 昭世

日本デザイン学科を含む16学会よりなる藝術学関連学会連合は，シンポジウム開催を主な活動としている．2018年度は，永田靖，小菅隼人（日本演劇学会)，小林昭世（当学会）をオーガナイザとして，6月2日(土)，慶應義塾大学にて，「藝術と教養−藝術は教養たり得るのか？」を開催した． このテーマのもとに,デザインをはじめ,美術,音楽，演劇，映画，舞踏などの領域を横断的に討論が行われた．

横断型基幹科学技術研究団体連合

担当理事　薗澤 雄亮

本学会では，横幹連合が昨年度より試行版として実施している「コトつくり至宝発掘事業」の運営に関して積極的に協力を行っている．2018年度の事業では，この一環として優秀なコトつくりを顕彰する「コトつくりコレクション」の第1回選出が実施され，この制度設計や運営，選出に関して前・現担当理事を中心に積極的に協力を実施し，2019年4月20日にこれらの結果が横幹連合ウェブサイトに公開された．

日本工学会

担当理事　村上 存

日本工学会は，約 100 学協会により構成される工学系学術団体である．2018（平成 30）年度は，会員学協会の話題提供や学協会運営などに関する最近の情報交換が行われる事務研究委員会が 10 回開催され,そこへの出席を通し有効な情報収集を行った．

機械工業デザイン賞審査委員会担当

担当理事　小林 昭世

日刊工業新聞主催の機械工業デザイン賞に本年度より日本デザイン学会賞が創設された．2018 年は，手術用超音波メス・ハーモニック・HD 1000i（ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社）がこれを受賞した．

第１支部

支部長　横溝 賢

第９回第１支部研究発表大会は，秋田大学が幹事校となり，2018 年 10 月 7 日（日）～8 日(月)の日程で開催された．初日 10 月 7 日（日）は，秋田大学附属工業博物館講堂を会場として，はじめに，今井忠男先生（秋田大学国際資源学部教授／岩盤工学）による「阿仁鉱山の技術と経済が残した物～秋田文化と工業のつながり～」というテーマの講演があった．江戸時代前期に開抗した阿仁鉱山にて,地下鉱脈の調査・採掘技術が高度に発展してきた経緯や,金銀銅の河川舟運によるまちづくり・秋田文化の創生についての話を聞くことが出来た．つづいて５名の研究者による口頭発表があり，異なる現場における実践中心の研究が発表された．

２日目 10 月 8 日(月)は市内の旧割烹松下を会場として，朝 9 時，約 80 畳のお座敷に 13 件のポスターがずらりと並び，ポスターセッションを実施した．会場が座敷であったことが影響したのか，学生や社会人らは年齢の壁を超えて闊達な意見交換が展開された．

ポスター発表の次は，秋田が誇る銀銅の金工職人による作品説明があった。参加した職人は独自のアプローチで金工技術を探究しており，地物で工芸を極めようとするモノづくりの姿勢や考え方を学ぶことが出来た．

職人さんの作品紹介につづいて，あきた舞妓さんによる日本舞踊の演舞があった．会場となった旧割烹松下は，明治から昭和初期にかけて繁栄した川反芸者の文化を再び嗜むことを目的にリノベーションされた場所である．

鉱業で栄えた秋田の芸者文化の盛衰と再生の物語を聞き，舞妓さんの演舞による非日常世界にひとしきり浸かった後，１０名の実践者によるライトニングトーク（以下、LT）を実施した．LT は,「このアイデアどうでしょう？」とか,「やってみたら、こうなったんだけど、どう思います？」など，口頭発表では怖くて聞けないような「問い」を気軽に立てられることが魅力である．10 人の軽やかなライトニングトークは，その場でグラフィックレコーディングし（以下、グラレコ），LT の後にグラレコを見ながら参加者と発表内容に関して議論を深めた．本大会には学生のほか金工職人や川反舞妓，そして社会人や教育研究者など多様な人々が参加した．各々の専門技能を学び合うことから，参加者同士，年齢や専門分野の垣根を超えて，各々の研究や活動を相互に理解し，評価しあう対話を積極的に展開していた．

第１支部会ウェブ：
https://jssdbranch01.tumblr.com/
大会実行委員長:石井宏一(秋田大学)，実行委員：菅原香織（秋田公立美術大学)．

第２支部

支部長　平松 早苗

第２支部では，昨年度の「おもてなし～コミュニケーションデザイン」へと展開するべく，日本の伝統芸能の施設への見学を検討していたが，見学先との調整がつかず，本年度は延期となった．引き続き調整を行う．
また，教育成果アーカイブづくりの端緒として，2018 年度の教育成果物を紹介する小冊子「教育成果集」の制作を企画した．具体的には、教育機関でデザイン教育を指導する会員に，指導された教育成果の中から１点を推薦してもらい，それを小冊子にまとめるものである．対象は，大学院，大学，短大，各種専門学校，高校などの教育機関とし，そこで指導した教育成果、卒業・修了研究または制作，あるいはそれらに類する成果を推薦してもらった．質的アーカイブづくりの見地、および誌面の制約の関係から，第２支部の会員を対象として１名が推薦できる教育成果を１件とした．春季大会での発行を予定している．企画にご協力いただいた皆様方に厚く御礼申し上げる．

第３支部

支部長　黄 ロビン

第３支部では今年度も会員交流と研究・デザイン活動の活性化を目標として，下記の事業を実施した．

1. 第 3 支部研究発表会・懇親会

平成 30 年度第 3 支部研究発表会は 2019 年 3 月 10 日に名古屋市立大学桜山キャンパスで開催された．14 回目となる本研究発表会には，口頭発表 18 件、ポスター発表 17 件，参加者 60 名を超え、活発な論議を交えて盛大な研究成果を挙げた．今年度から従来の印刷出版に加えて，梗概集をデジタル化して USB で配布するようになった．

なお、学生の演題を対象とする「優秀発表賞」も設けられ，口頭発表では名古屋大学馬場祐太朗，福井工業大学の Sutas Pornpan、ポスター発表では椙山女学園大学の川瀬彩華と川嵜加奈代，計 4 名の学生が選出された．最後の懇親会，わいわい歓談の中にこの 4 名の受賞者が表彰された．

2.第 3 支部報告集

支部会員日頃研究活動やデザイン活動の発表の場として昨年度から発足した「第 3 支部報告集」では，椙山女学園大学の滝本成人氏，名古屋学芸大学の中西正明氏，岡崎女子短期大学の町田由徳氏，計 3 名が投稿し，第 3 支部研究発表会概要集と一緒に出版された．

3.日本デザイン学会奨励賞第 3 支部

学生の表彰制度について，第 3 支部所属各教育機関において優秀な研究・制作活動を行った学生・大学院生を対象とした「奨励賞」を平成 25 年度からスタートした．学部・大学院各 2 名枠での会員推薦する形式によって，椙山女学園大学の佐橋美帆，金城学院大学の安江亜姫奈，福井工業大学の三田村春佳と大学院の楠大和，名古屋学芸大学院生の飯柴頼と鈴木良麻及びに学部生の福田凌也と松井るな，名古屋工業大学の森本創一朗，名古屋市立大学の加藤悠介と菊地有美子，愛知県立芸術大学院生の林子翔，長岡造形大学院生の近藤祐未，愛知淑徳大学の田中泰登と渡邉香純，北陸先端科学技術大学院大学の谷口俊平と Shen Tao と LI. MINGHUI, 数多くの学生が表彰された．

4.第 3 支部ウェブサイトの運営

第 3 支部その他の活動について、すべての情報を支部ウェブサイトに公開している．詳しい情報については「http://jssd3b.jp/」を参照いただきたい。

第４支部

支部長　久保 雅義

1.第65回春季研究発表大会「“デザイン”の時代」(6月22日(金)～24日(日))が大阪工業大学で実施された.6月18日に大阪北部にM6.1の地震があり，マスコミのやや過大被害報道で参加キャンセルの問い合わせが多数あり，大会の開催が危ぶまれたが、幹事校・本部の努力によりで開催にこぎつけた．支部としては，開催に向けての支援を行った．

2.第4支部研究発表会を平成31年2月2日(土)，京都工芸繊維大学にて開催した．主催 日本デザイン学会第4支部、共催京都工芸繊維大学.会場0111､0112教室、内容は以下の通り．ただ同時期インフルエンザの罹患が全国で統計上過去最多となり，発表キャンセル参加キャンセルが多数あった．

■口頭発表15件

01:クラシックバレエの基本姿勢における身体意識と言語表現についての調査 権野めぐみ/京都工芸繊維大学

02: ＦＣＡ 分析を用いたリュックサック要求事項の抽出 益本佳歩/京都女子大学

03:質問紙調査によるリュックサックの要求事項抽出 荒木麻耶/京都女子大学

04:味覚を表す色彩の外部気温による違い 種瀬佳奈子/京都女子大学

05:伝統的工芸品を普及･発展するためのサービスデザイン 松井彩/京都女子大学

06:デザインとデザイン表現案 水野忠陽/水野忠陽環境美術事務所

07:グッドデザイン賞を通した戦後デザインの変遷 西村樹/京都女子大学

08:産後ケア施設とマッサージ施設の併設に関するサービスデザインの提案 石風呂裕子/京都女子大学

09:ロボットアームによる漆の刷毛塗り 土岐謙次/宮城大学

10:ブロック玩具を用いたメンタルモデル構築過程の検討 鉢嶺悠美/京都女子大学

11:仮想現実感を用いた形状を復元したニホンオオカミの展示システムの開発 板倉七海和歌山大学

12:メンタルモデル構築に効果的な手段の検討 片桐菜絵学/京都女子大学

13:デザインの現在と日本における今後の課題 鈴木美和子/大阪市立大学

14:文楽の音と動きの技術を適応するロボットの感情表現メカニズム 中川志信/大阪芸術大学

15:木綿手織産業における持続可能な発展の現代的な課題 曽和英子/神戸芸術工科大学

■Kyoto-Design-Labの見学 京都工芸繊維大学内D-Lab の視察　池側教授の案内で視察と説明を受けた．

■基調講演「岐路のデザイン」DeNAデザイン本部長/増田真也氏

2018 年 5 月に特許庁より発表された『「デザイン経営」宣言』をうけて未来志向の戦略デザインを志向し，ビジネスサイド，テクノロジーサイド，デザインサイドが三位一体となり世界中の顧客を笑顔に出来るような“新しい価値と顧客体験”を生み出す．

そのために UI やグラフィックなどインタフェースデザイナーと，UX デザイナーの役割を明確にし，それぞれに集中して責任を持って推進しいく.また，デザイン本部を設立し，増田さんが本部長,執行役員に就任し次なる 10 年に向けた「デザイン経営」戦略を実践していく．

池側教授よりD-Labの説明を受ける

DeNAデザイン本部長/増田真也講演

■交流会　17:30-19:30会場:　60周年記念館2階小会議室　基調講演の増田氏も入れて実施した．

第５支部

支部長　田村 良一

平成 30 年度は，2018 年度日本デザイン学会秋季企画大会が九州大学大橋キャンパスで開催されたことから，研

究発表数や参加者の増加，交流の活発化などを目指し，「研究発表会」については秋季企画大会と同時開催，「学生デザイン展」については同大会で開催された学生プロポジションに統合するかたちで実施した。前者の結果を以下に報告する．

平成 30 年度 第 5 支部研究発表会
会場：九州大学　大橋キャンパス
日時：平成 30 年 10 月 13 日（土）9:00~12:00, 10 月 14 日（日）9:00~12:00

平成 30 年度第 5 支部研究発表会は，2019 年度秋季企画大会の会期中の，10 月 13 日（土）午前 9 時～正午，14 日（日）午前 9 時～正午の二日間にわたり，口頭発表を 3 会場，ポスター発表を 1 会場で実施した．今年度は，第 5 支部に加えて，第 2 支部，第 3 支部，第 4 支部からの学生，会員など，さらに民間企業からの参加もあり，口頭発表 49 件，ポスター発表 3 件の合計 52 件に上る研究発表が行われた．多種多様な研究テーマの研究発表のもと，多数の聴講者の来場もあり，活発な研究発表会を開催することができた.また，13 日（土）午後 6 時から，平成 30 年 9 月に竣工した「デザインコモン（学修支援施設）／GEIKO ラウンジ（食堂）」にて,平成 30 年度秋季企画大会との合同による懇親会を開催した．70 余名の参加があり，参加者相互に交流，研究内容等に関する情報交換や親睦を深めた．

口頭発表の様子

ポスター発表の様子

例年とは異なるかたちでの開催となり，申し込みなどの事務手続きに際してご不便をおかけする面があったかと思うが，お陰さまで成功裏に終えることができた．参加いただいた皆様，運営に携わっていただいた皆様に，改めて厚く御礼を申し上げる．

本部事務局

本部事務局長　佐藤 弘喜

2018 年度末の会員数は，正会員 1,528 名，学生会員数 263 名，名誉会員 64 名，賛助会員数 30 件，年間購読会員 41 件となっている.正会員と学生会員を合わせた会員数は 1,792 名で，昨年の同時期（1,691 名）と比較して 101 名の増加となった．

昨年度は，法人への完全移行後最初の年度となった.その前年(2017 年度)は，任意団体から法人への移行に伴い学会運営方法や予算処理，総会の手続きなどに関して実施方法や運用を変更する必要が発生したが，2018 年度は２年目ということで，ある程度運営方法が定着してきたと考えられる．それに伴い，法人化対策特別委員会は役割を終えたため解散した.今後も引き続き，必要な対応を行って手続きを進めていきたい．

法人化が軌道に乗りつつあることから，今後はあらためて従来からの課題である会員拡大や事務局運営の効率化を検討していく必要がある。

教育部会

主査　金子 武志

2018年度の教育部会では下記の通り，デザイン教育研究会を年度を通じて１回だけ開催した．

＜活動概要＞

①デザイン教育研究会
2019年2月23日（土）15:30～17:30
会　場：日本大学芸術学部　江古田校舎西棟共同アトリエ（練馬区江古田）
参加者：約10名
進　行：金子武志（日本デザイン学会教育部会主査）

テーマ:『 平成のデザイン教育を振り返る 』
概　要：

2019年５月に元号が改まり平成最後のデザイン教育研究会となることに合わせて今回のテーマを設定を試みた．世間では「平成最後の～～」というフレーズが多く多く聞かれるようになった．

平成とはどのような時代だったのか振り返るタイミングとして「平成のデザイン教育」について色々な視点を共有する時間を持ちたいと考え形式は座談会とした．

前回研究会で特集した高山正喜久氏（基礎デザイン教育の第一人者，2017年2 月，99 歳で他界）をはじめとするデザイン教育のメンター達が戦後我が国の教育現場においてスタートさせたものが「昭和のデザイン教育」であったとすれば，私たちはそれらを引き継ぎ、平成という時代に何をもたらすことができたのか．

世の中の様々な変化とともにあったこの３０年間におけるデザイン界とその教育について参加者からのコメントしてもらった．

平成という時代の特徴が色々と見え，かつ新しい時代の教育の在り方が少しイメージ出来たように思う．

参加者は服飾デザイン教育,幼児教育,グラフィックデザイン系，基礎デザイン・基礎造形，デザイン史など多岐にわたる教育ジャンルであった．

座談会では参加者全員に次のA～Cの項目をリクエストし順次発表してもらった．

A. 自己紹介，これまでの活動紹介，現在の活動状況．
B. 平成という時代に思うこと,私にとっての平成とは（モノ・コト・ヒト，ブーム，カルチャーなど）．
C. 平成のクリエイティブ教育を振り返る（デザイン，造形，美術、アート，工芸，，，）．

参加者からの気になるコメントを列挙する．

・PCの普及による手仕事との関係→100年前のバウハウスでも機械文明に対する身体性の再確認が問われていたようだが，，

・バウハウス教育は平成に入ってどうだったのか。コンピューター文化とどうマッチしたか.
・プロとアマの境界線が変った（誰でもデザイン出来る時代，しかし際立つものも少ない）
・造形的な教育からデザインシンキングや問題解決のためのクリエーション教育という意識の変化
・デジタルネイティブによる社会現象の動きは想像以上に進行が早かった.
・スマートフォンの普及によりデザイナーではない人達が多いに発信出来る時代となった.
・デジタルのモラル教育が必要な時代ではないか.
・学生はPCよりも，タブレットよりも，スマホがメインの道具になっている.
・制作のプロセスを楽しむ頻度が少なくなっている．（リサーチも手軽，制作も手軽）
・明治ー大正ー昭和ー平成をどのようにリレーするか。(良いデザインとは、デザインや美の基準について)
・21_21DESIGNSHGHTや番組「デザインあ」の存在と影響。デザインとは何かを常時丁寧に扱い問い続けるメディアもある.
・21世紀になれば我が国でも小学校で「デザイン」を当たり前の教科として扱うものだと思っていたが．．．文化の問題.

環境デザイン部会

主査　清水 泰博

平成30年度は,今までの活動の継続,深化を目指し,専門性や志向性,実績,経験などに基づいた部会員相互の研究を更に行って，部会全体の一層の活性化に努めた.法人化した本学会の中で,新たな活動や運営の在り方，施策なども継続して考えた.

毎年設定する年間テーマでは「サスティナブル環境デザイン」をメインテーマとし、そのテーマのもと，実際の活動対象地域としては都市計画道路が廃止され今後の方向性が模索されている、東京都台東区谷中の環境デザインを考えることとし、見学会、部会員による提案発表、展示会等を行なった.

部会の会報「ED Place」は，6月に82号「卒業制作特集」，11月に83号「部会員の活動」，3月に84号「特集・谷中らしさをどう継なぐのか」をまとめ、この3冊をPDF配信により発行した.

上記の活動とともに，本部会の位置づけや活動，運営，体制の在り方などを検討しながら,規約の作成を進めた.

家具・木工部会

主査　新井 竜治

●総会
家具・木工部会では，例年，春季研究発表大会の際に総会を開催してきたが,2018 年度，第 65 回春季研究発表大会は，大阪北部地震直後に開催されたため，各校の判断で参加を取り止める部会員がいた．そのため，2018 年度は学会大会時に総会を開催することができなかった．そこで，後日メールによる持ち回り審議を実施した.審議の結果,以下の 3 点が決定した.
(1)部会主査が，青木幹太（九州産業大学：2016―17 年度主査）から新井竜治（芝浦工業大学）に交代する.
(2)家具・木工部会による『デザイン学研究』特集号を発行する.
(3) 4 名の新入部会員を受け入れる.
●特集号
2018 年度，第 65 回春季研究発表大会の折，家具・木工部会による『デザイン学研究』特集号の発行を志すことになった．そして特集号（2019 年 10 月号）の企画委員会（新井竜治・白石光昭・滝本成人・石川義宗）を芝浦工業大学において２回開催した．その後，メールによる持ち回り審議を実施した.企画委員会では，「家具のデザインと技術――モノのデザインのこれまでとこれから」というメインテーマで，特集号の発行を目指すことになった．そして，家具・木工部会員に対して，掲載論文のタイトル・要旨（400 字程度）を公募した.これに対して 11 名の応募があったが，企画委員会における審議の結果，10 名に特集号の原稿を依頼することになった．そして，特集号の執筆者には,12 月 31 日〆切で､目次(案)を提出していただいた.

デザイン史研究部会

主査　立部 紀夫

平成 30 年度デザイン史部会では以下の発表形式の研究会を開催した．本年度も同様の研究会を開催予定である.
■第３９回研究会
開催日：平成 30 年 12 月 1 日
テーマ:「坐り方のデザイン－中国家具の影響と日本の住まい」
発表者：財満やえ子氏（財満住環境設計室）
場　所：マイスペース Cafe MIYAMA 渋谷公園通り店
■第４０回研究会
開催日：平成 31 年３月９日
テーマ:「デザイン史研究・教育の意義を考える」
発表者：石村眞一氏（九州大学名誉教授）
場　所：マイスペース Cafe MIYAMA 渋谷公園通り店

デザイン理論・方法論部会

主査　松岡 由幸

デザイン理論・方法論部会は，デザイン方法論部会を拡張するかたちで,11 年前の 2008 年４月に設立された.春季大会では毎年，4，5 件の企画セッションによる発表を継続するとともに,2017 年度までに,15 回以上のシンポジムや研究会を実施し，デザイン理論・方法論の構築に努めてきた.

2018 年度においては，大阪工業大学で行われた春季大会にて，テーマセッション「多空間デザインモデル、デザイン理論・方法論」を開催し，８件の研究発表が行われた.

2018 年４月 13 日（金）には，慶應義塾大学において，当部会共催の「デザイン塾：モノづくり×モノづかいのデザインサイエンス」が，2018 年７月 20 日（金）には「デザイン塾：多空間デザインモデルの理論と実践」が開催された。両デザイン塾各々において，研究者，教育者，デザイナー，企業の開発者,学生を含む 60 名以上の方々にご参加いただき，活発な議論が行われるとともに，それらの議論を『デザイ

ン科学事典』(丸善出版) の刊行につなげることができた.

ファッションデザイン部会

主査　神野 由紀

平成30年度ファッションデザイン部会の研究例会は，以下の通り開催された.

開催日：2019 年 3 月 8 日（金）

テーマ：「埋もれていた近代日本のスカーフ史　―横浜スカーフ誕生の背景―」

発表者：山﨑稔恵氏（関東学院大学）

場所　：大妻女子大学千代田キャンパス

要旨　：横浜スカーフの製造・輸出の開始時期は従来，産業史では昭和初期とされ，その由来は横浜開港まもなく椎野正兵衛商店が手がけた絹手巾に遡り説明されてきた.だが「スカーフ」の文字が日本のメディアに登場し、貿易年表の輸出品目に掲出されるのは明治 40 年代のことである.また日本服飾史ではショールに関する言及はなされるが，当時ハイカラな洋装品として新聞紙上で推奨され，大正後期から昭和初期にかけては和装洋装を問わず用いられたスカーフのことには触れられていない．そもそもは横浜スカーフ誕生の背景を探る目的で始めた研究であるが，服飾史の視点から照射してみると産業史とは異なる風景がみえてくる．近代日本の諸相を報告する．

今回の「埋もれていた近代日本のスカーフ史」では，昭和期の輸出産業と考えられていた横浜スカーフのルーツを、膨大なスカーフ資料とともに丁寧にたどるという発表であった．産業史の視点からのみならず，日本に輸入されハイカラな服飾雑貨として日本人に受容されていく様子を見ていくことで，横浜で産業が興っていった背景を理解することができた．貴重な現物資料などを前に，参加者全員による活発な質疑応答の後，研究例会を終えた．

なお，平成 31 年度も同じように，開催する計画である．

子どものためのデザイン部会

主査　岡崎 章

第 65 回春季研究発表大会では,テーマセッション「子どものためのデザイン」を主催し,6 月 23 日 9:00～11:00, 12:50～14:50 に，障がい児，ヘルスケア，木育玩具，主観評価，小児病棟アート，ワークショップなど，多岐に渡る分野の発表が行われた．12 件の発表の内,『視覚障がい児の生活動作習得に関するツール及び手法の調査』(宮前貴行　他 4 名)，と『「構造感覚の体得」と「コミュニケーション力」のデザイン』(鉄矢悦朗) の 2 件が，グッドプレゼンテーション賞を受賞した.

・部会ワークショップを KDSS2018（感性デザインサマーセミナー）との共同開催として 9 月 14 日～16 日にホテル暖香園で実施した．10 大学の教員，学生など 50 名が集い,研究発表と問題解決手法を用いたワークショップを行った.

なお，子どものためのデザイン部会のサイトは，以下である.

https://www.facebook.com/design.for.children.jp/

プロダクトデザイン研究部会

主査　山崎 和彦

本年度の主な活動は，１）関連団体(人間中心設計機構，X デザインフォーラム等)とのイベントの開催，２)プロダクトデザイン研究に関連する情報発信(日本デザイン学会 Web サイト，プロダクトデザイン研究部会 Facebook 等)などの活動であった.

タイムアクシスデザイン研究部会

主査　寺内 文雄

本研究部会は，大量消費や大量廃棄による地球温暖化，エネルギー問題の深刻化，および精神的な豊かさの欠乏などの諸問題に対応可能なデザインコンセプトの１つであるタイムアクシスデザインに注目し，これに基づくデザイン理論，方法論，および方法の構築を目的としている.

2018年度においては，６月に大阪工業大学で行われた春季大会にて，テーマセッション「タイムアクシスデザイン」を開催し，５件の研究発表が行われた．また，オーガナイズドセッションにおいては「タイムアクシスデザイン（TaD）維新は新たな地平を拓くか？」が行われ，研究者や実務者など様々な立場からTaDにおける共通の課題や方法論について活発な議論がなされた.

バイオ・メディカルデザイン研究部会

主査　國本　桂史

バイオ・メディカルデザイン研究部会は，医療分野のデザインはそれが医療機器デザインや，人工関節などの人体再建の構造デザインであるとを問わず,医学との積極的な協力によって,各方面において工学的な手法と技術を取り入れ,その現象的解明を進展させると同時に,より有効な手段と有意義なデザイン手法の提供に努力が向けられる必要がある.

医学にデザインの手法をいかに取り入れるかという問題は，それが医学とデザインとの境界領域にあるために,両者の緊密な連繋が必要なのは勿論であるが、デザイン側においても，医学と工学の協力を得なければ充分な成果を挙げることはできない．また生体工学的概念を具体的に進展させるためにデザインの手法を必要とするとし，2008年6月に設立された.

2018 年度においては,6 月 23 日には大阪工業大学で行われた春季大会にて，オーガナイズド・セッションを開催した.

また，4 月から大学における医療とデザインの融合講座として臨床医療デザイン学分野が公立大学法人名古屋市立大学大学院医学研究科に開設された.さらに,6 月 29 日には金沢で開催された日本病院学会において臨床医療デザインについてのセミナーを行なった.

10 月には大分で第８回日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会 in 大分　特別講演 I(特別版)：鼎談「人・ロボット・AI が融合する未来」

が開催され，鼎談の形で医療デザインについてセッションを行った．

情報デザイン部会

主査　原田　泰

2018 年度は，第 65 回春季研究発表大会に向けて，「当事者デザイン」「身体性とデザイン」という 2 つのテーマセッションを主催し，多くの発表申し込みがあった．しかし「大阪府北部地震」の影響で参加キャンセルも多く，同時に開催予定だった研究会についても中止・延期とするなど，研究部会としての活動を積極的に実施することができなかった．2019 年度は，これらをふまえつつ，学会でのテーマセッション開催，研究会の開催を積極的に進める計画である．

第２号議案

2018 年度　収支決算報告

Ⅰ 貸借対照表

（平成３１年３月３１日現在）

単位：円

科　　目	金　　額	科　　目	金　　額
（資産の部）		（負債の部）	
流動資産	15,719,567	流動負債	70,000
現金及び預金	15,719,567	未払法人税等	70,000
固定資産	0	固定負債	
有形固定資産		負債合計	70,000
無形固定資産		（純資産の部）	
投資その他の資産		一般正味財産	15,649,567
		純資産合計	15,649,567
資産合計	15,719,567	負債・純資産合計	15,719,567

Ⅱ 損益計算書

（自平成３０年４月１日　至平成３１年３月３１日）

単位：円

科　　目	金　　額	
【経常損益の部】		
（経常収益）	金　額	合　計
事業収益	23,814,474	
正会員年会費	15,853,000	
新入会員	1,467,000	
賛助会員	769,568	
年間購読会員	1,480,500	
学生会員	1,099,000	
学会誌掲載負担金	2,316,000	
作品応募料	93,000	
雑収入	736,406	
財務収益	119	
受取利息	119	23,814,593
（経常費用）		
事業費用	5,378,215	
オンデマンド印刷	1,435,026	
論文審査委員会	697,000	
作品審査委員会	152,749	

論文集	869,400	
作品集	943,920	
概要集	1,287,360	
大会補助費	-2,451,634	
オーガナイズドセッション	242,302	
国際デザイン会議	59,495	
研究部会活動補助費	290,111	
支部活動補助費	443,044	
広報費	35,209	
学術会関連	191,748	
出版物通信費	254,043	
概要集編集委員会	407,440	
特集号編集委員会	260,000	
総会準備経費	27,470	
封筒費	111,132	
予備費	122,400	
管理費用	9,630,290	
給料手当	4,570,000	
理事会運営費	542,561	
通信費	528,078	
消耗品費	78,848	
水道光熱費	134,378	
支払手数料	144,436	
賃借料	1,800,000	
保険料	97,656	
事務合理化施設設備費	218,986	
経営業務コンサルタント料	162,000	
通勤費	199,280	
印刷費	155,220	
運営経費	237,733	
アルバイト雇用費	587,300	
雑費	173,814	15,008,505
経常利益		8,806,088
（経常外損益の部）		
経常外収益		
経常外費用		0
税引前当期純利益		8,806,088
法人税、住民税及び事業税		0
当期純利益		8,806,088

Ⅲ 決算書

〔一般会計〕

■収入の部

項目	予算額	決算額	増減 対予算額	決算額内訳	
2017年度繰越金	6,913,479	6,913,479	0		6,913,479
1 会費（現）	16,374,800	16,321,500	-53,300	正会員@13,000×1,220名	15,853,000
				学生会員@6,500×72名	468,500
2 会費（新）	2,090,000	2,097,500	7,500	正会員@18,000×82名（一般　入会金：5,000，年会費：13,000）	1,467,000
				学生会員@6,500×97名（学生　入会金：免除，年会費：6,500）	630,500
3 賛助会員費（現）	920,000	709,568	-210,432	24件	709,568
4 賛助会員費（新）	30,000	60,000	30,000	2件	60,000
5 年間購読会員費（現）	1,225,000	1,480,500	255,500	@25,000x58件	1,480,500
6 年間購読会員費（新）	25,000	0	-25,000	0件	0
7 広告費	50,000	0	-50,000	0件	0
8 学会誌掲載別刷料・負担金	3,235,000	2,409,000	-826,000	論文掲載料	1,756,000
				作品集審査費	93,000
				作品集掲載料	440,000
				2017年度作品集掲載料	120,000
9 概要集売上金	0	0	0	@3,500×1冊	0
10 春季研究発表大会	5,000,000	5,947,520	947,520	参加費	3,870,500
				研究発表費	822,000
				懇親会	805,000
				企業展示	450,000
				預金利息	20
11 秋季企画大会	1,000,000	495,500	-504,500	参加費	219,500
				企業展示	90,000
				レセプション参加費	186,000
12 雑収入	820,000	736,525	-83,475	学会誌売上	67,100
				NIFELS還元金、補助金、預金利息等	668,245
				その他	1,180
13 寄付金	0	0	0		0
計	**37,683,279**	**37,171,092**	**-512,187**		**37,171,092**

■支出の部

項目	予算額	決算額	増減 対予算額	決算額内訳	
本部事務局＆理事会関係	**11,129,280**	**9,630,290**	**-1,498,990**		
1 本部事務局経費	10,079,280	9,087,729	-991,551	消耗品代	78,848
				運営経費（春季大会出張費用含む）	237,733
				職員給与（@180,000×12,@230,000×2）＋@150,000x12,@75,000x2)	4,570,000
				通勤費（@6,000x12）＋（@13,820x4,@6,000x12）	199,280
				施設設備費	218,986
				通信費及び電話代金	528,078
				印刷代	155,220
				雑費	173,814
				会費引落経費	144,436
				賃貸料（@150,000×12ヶ月）	1,800,000
				光熱費	134,378
				アルバイト雇用費(宛名整理,書類作成,発送,名簿管理補助等)	587,300
				経営業務コンサルタント料	162,000
				租税公課	0
				法人税、住民税及び事業税	0
				労災保険料	97,656
2 理事会運営費	1,050,000	542,561	-507,439	会場借用料、理事会運営経費等	542,561
3 選挙経費	0	0	0	選挙に関する費用	0
出版関係	**1,395,000**	**1,109,749**	**-285,251**		
4 論文審査委員会経費	700,000	697,000	-3,000		697,000
5 作品審査委員会経費	275,000	152,749	-122,251	作品集編集費	152,749
6 学会誌編集・出版委員会経費	30,000	0	-30,000		0
7 特集号編集委員会経費	390,000	260,000	-130,000	第26巻1号編集委員会	130,000
				第26巻2号編集委員会	130,000
				第26巻1号編集委員会	0
学会誌印刷・通信関係	**11,366,895**	**4,900,881**	**-6,466,014**		
8 印刷費	9,866,895	4,646,838	-5,220,057	論文集	869,400
				特集号	0
				作品集	943,920
				論文集・作品集オンデマンド印刷費	1,435,026
				概要集USB(700冊印刷）プログラム印刷費	1,287,360
				封筒代	111,132
9 出版物通信費	1,500,000	254,043	-1,245,957	郵送料・事務代行料金	254,043

大会関係		**2,260,000**	**4,728,093**	**-103,267**		
	10 2017，2018年度　春季研究発表大会	3,000,000	2,571,360	-428,640	2017年度大会補助金（返金）	-500,000
					プログラム・カンファレンスキット	540,452
					講演料等	163,273
					アルバイト雇用費	735,000
					会場費・会場設営費	505,285
					懇親会費	706,000
					通信費	20,559
					租税公課	1,800
					消耗品費	391,570
					雑費	7,421
	11 2018年度 秋季企画大会	1,200,000	920,026	-279,974	通信費	3,583
					業務委託料	57,844
					消耗品費	9,247
					講演料等	318,840
					アルバイト雇用費	302,000
					会場費・会場設営費	47,000
					ワークショップ実施	0
					懇親会費	180,000
					雑費	1,512
	12 2019年度春季研究発表大会	0	500,000	500,000	準備費	500,000
	13 春季大会概要集編集	450,000	407,440	-42,560	アルバイト雇用費（2018年度分）	42,400
					演題登録システム（PASREG）利用料（2018年度春季分）	365,040
	14 春季オーガナイズドセッション費用	320,000	242,302	-77,698	4件	242,302
	15 学会セミナー費用	100,000	0	-100,000		0
	16 総会準備経費	30,000	27,470	-2,530	総会経費、委任状・資料印刷代	27,470
	17 学会各賞選考委員会経費	100,000	0	-100,000	書類作成費（学会各賞推薦状・資料・記念品代等）	0
	18 国際デザイン会議	60,000	59,495	-505	国際デザイン会議会費　（500＄）	59,495
					国際デザイン会議活動費（運営会議活動費）	0
委員会関係		**1,400,000**	**733,155**	**-666,845**		
	19 委員会経費	200,000	0	-200,000	１委員会	0
	20 研究部会共通経費	400,000	290,111	-109,889	共通費（6研究部会）	290,111
	21 支部活動補助費	750,000	443,044	-306,956	5支部	443,044
	22 市販図書企画・編集経費	50,000	0	-50,000	編集費	0
広報関係		**250,000**	**35,209**	**-214,791**		
	23 広報費	250,000	35,209	-214,791	大会ポスター，ちらし通信費 65回大会	26,158
					ホームページリニューアル	0
					ホームページ管理・運営	9,051
その他		**6,882,104**	**16,033,715**	**9,151,611**		
	24 学協会関連	275,000	191,748	-83,252	学術会議活動費（@30,000＋@30,000）	0
					藝術学関連学会連合シンポジウム分担金	15,000
					日本工学会活動費	0
					日本工学会会費	26,748
					CPD協議会会費	50,000
					日刊工業新聞社	30,000
					横断型基幹科学技術研究団体連合会費	70,000
					横断型基幹科学技術研究団体連合活動費	0
	25 予備費	6,607,104	122,400	-6,484,704	慶弔費	122,400
					その他	0
	26 繰越金	0	15,719,567	15,719,567		15,719,567
	計	**34,683,279**	**37,171,092**	**-83,547**		**37,171,092**

［特別会計］

	2017年度	2018年度	増減	決算額内訳
学会本部事務局常設基金	20,361,680	20,363,408	1,728	利息（¥1,728-）：基金に繰り入れ

２０１８年度収支決算につき，上記のとおりご報告いたします。　　２０１９年5月２９日　一般社団法人 日本デザイン学会

本部事務局長　佐藤　弘　　本部副事務局長　　本部事務局員　松原

監事　　監事　佐々木　美

2019 年度　委員会等一覧

本部事務局	事務局長	副事務局長	幹事
	佐藤弘喜	小野 健太 佐藤浩一郎	加藤健郎

委員会	委員長	委員	幹事
論文審査委員会	久保光徳（和文誌担当）	池田岳史 佐藤浩一郎 両角清隆	川合康央 益岡　了
	村上存＊(英文誌担当)	加藤健郎 小山慎一 柳澤秀吉＊	蘆澤雄亮 Sim Teck Ceng
作品審査委員会	杉下哲 小林昭世(副)	加藤大香士 上綱久美子 永盛祐介＊ 細谷多聞	水谷　元 高梨　令
学会誌編集・出版委員会	井口壽乃	加藤三喜	伊原久裕 田中佐代子
研究推進委員会	小林昭世	蘆澤雄亮＊ 柿山浩一郎＊	
企画委員会・総合企画	岡崎章	加藤健郎 森田昌嗣	
企画委員会・支部企画	平松早苗	黄ロビン 久保雅義 田村良一 横溝賢	
教育・資格委員会	佐藤浩一郎	加藤健郎	
広報委員会	大島直樹	蘆澤雄亮＊ 加藤三喜 永盛祐介＊	
財務委員会	生田目美紀	小野健太	
市販図書企画・編集委員会	加藤健郎	佐藤浩一郎	蘆澤雄亮＊
春季研究発表大会概要集編集委員会	永井由佳里	柿山浩一郎＊ 永盛祐介＊	小宮加容子

支部	支部長	副支部長	幹事
第 1 支部(北海道・東北地域)	横溝賢	原田泰	
第 2 支部(関東地域)	平松早苗	工藤芳彰	森山貴之
第 3 支部(北陸・中部地域)	黄ロビン	國本桂史	廣瀬伸行 西尾浩一 中西正明 須藤正時 鄭 道成 丁 知強 弓立順子
第 4 支部(近畿・中国・四国地域)	久保 雅義	岡田栄造	赤井　愛
第 5 支部(九州・沖縄地域)	田村良一	池田美奈子	岩田敦之 大久保亨

			梶谷克彦 迫坪知広 曽我部春香 鶴野幸子 中村隆敏 西口顕一 原田和典

学会各賞選考委員会	**委員長**	**委員**	
＜協力委員会＞	庄子晃子	青木弘行	杉山和雄
論文審査委員会		原田昭	松岡由幸
作品審査委員会		宮内悊	宮崎清
		森典彦	山中敏正（担当）
委員会等担当	**担当**		
Design シンポジウム担当	松岡由幸	小林昭世	加藤健郎
デザイン関連学会シンポジウム担当	松岡由幸		
IASDR 担当	山中敏正	小野健太	
日本学術会議担当	小林昭世(第一)	村上存＊(第三)	
日本工学会担当	小野健太＊		
横幹連合担当	蘆澤雄亮＊		
機械工業デザイン賞審査委員会担当	小林昭世		

運営会議	松岡由幸 小林昭世 佐藤弘喜 小野健太 佐藤浩一郎 久保光徳 村上存＊ 杉下哲	井口壽乃 岡崎章 平松早苗 工藤芳彰 大島直樹 加藤健郎 生田目美紀 小山慎一	柳澤秀吉＊ 上綱久美子 永盛祐介＊ 加藤三喜 蘆澤雄亮＊ 山中敏正 國澤好衛
選挙管理委員会 ※2019 年 7 月 31 日まで	**委員長**	**委員**	
	井上征矢	永見豊 八馬智 吉澤陽介 永盛祐介	

監事	國澤好衛	佐々木美貴

2019 年度日本デザイン学会組織

2019 年度事業計画

論文審査委員会

委員長　久保 光徳

2019年度は，デザイン学領域の研究・教育基盤のさらなる向上に向けた活動を推進していく．そのために，英文誌と和文誌それぞれに担当委員を割り振り，英文誌“Journal of Science of Design”については村上存委員長を中心に学術水準の確保と国際的認知度の向上を推進していく．一方，和文誌『デザイン学研究』については久保を中心に論文区分や評価項目の見直しを進め，投稿数の増加や審査機関の短縮を目指していく．

また，昨年度に引き続き，多くの会員の皆様にご投稿いただけるよう，迅速な対応を推進していく．

論文審査委員会副委員長：村上存，委員：池田 岳史，加藤 健郎，小山 慎一，佐藤 浩一郎，両角 清隆，柳澤 秀吉，幹事：蘆澤 雄亮，大泉 和也，川合 康央，益岡 了，Sim Teck Ceng

作品審査委員会

委員長　杉下 哲

2019 年度も，「デザイン学研究・作品集」の，より一層の充実を目指す．予定する 25 号は，これまで同様に 2 月刊行に向け，8 月 20 日～8 月 31 日を「作品論文」「作品ムービー」の投稿期間とし，その後審査を開始する予定である．今後の広報ならびに日本デザイン学会 Web ページをご確認いただきたい．皆様が設計・制作したデザイン成果とその実現過程での研究・開発や思考プロセスなどの発表に，今後とも貢献する所存である．特には、より投稿し易い仕組みづくりを更に努めるとともに，作品集の在り方も深めたい．作品審査委員会メンバーは，引き続き，委員：杉下哲，小林昭世，加藤大香士，上綱久美子，永盛祐介，細谷多聞と幹事：水谷元，高梨令である．

学会誌編集・出版委員会

委員長　井口 壽乃

2019 年度の特集号は，2018 年度に未刊行の企画 26 巻 2 号「共創・当事者デザイン」（担当：岡本誠）に加え，27 巻 1 号「タイトル：家具のデザインと技術―モノのデザインのこれまでとこれから」（担当：新井竜治），27 巻 2 号「デザイニング　ナラティヴ：実践者のデザイン言語」（担当：横溝賢）の 3 冊の刊行を予定している．今後も会員の皆様からデザイン学会にふさわしい魅力ある企画・ご提案をいただきたい．委員：井口壽乃，加藤三喜，幹事：伊原久裕，田中佐代子．

研究推進委員会

委員長　小林 昭世

研究推進委員会の活動は，1 研究部会の活性化　2 春季研究発表大会のテーマセッションの運営　3 秋季企画大会における企画運営　などである．2019 年度は以下の活動を行う．1 活動中の研究部会と休止中の研究部会を区別する規則を整備する。

2 名古屋市立大学で開催される春季研究発表大会においてテーマセッションを募集した．　またテーマセッションにおいて 2 件のキーノート講演を実施する．　3 東北芸術工科大学で開催される秋季大会にて学生プロポジションを準備する．なお，本年度も企画委員会と連携しながら活動する予定である．

2018 度担当理事・幹事：　蘆澤雄亮，柿山浩一郎

企画委員会 総合企画

委員長　岡崎 章

2019年度の企画委員会［総合企画］の本年度の主な活動計画は，次のとおりである．

第66回 春季研究発表大会が、2019年6月28日（金）～30日（日）に名古屋市立大学 桜山キャンパスにて「デザインとヒト：未来に向けて」を大会テーマに開催される．

秋季企画大会は，東北芸術工科大学において「おいしいデザイン」を大会テーマに11月8日（金）～10日（日）の開催が予定されている．学生プロポジションは，11月9日（土）15:20～17:20に予定されている．詳細については，開催校サイトで確認の上，応募をお願いしたい．また会員の皆様には聴講・アドバイスをお願いしたい．

本年度の委員は，岡崎 章（拓殖大学）、森田昌嗣（九州大学），加藤健郎（慶應大学）の3名である．

企画委員会 支部企画

委員長　平松 早苗

2018 年度第 2 支部企画として実施の「教育成果集」小冊子を，本年度は，全支部対象の企画として実施を考えている．昨年度第 2 支部での実施の中で出てきた課題や，全国ブロックで開催の際の課題を支部長間で検討することから始め，支部間の連携を図りながら実施したいと考える．

作品の応募について，会員の皆様のご協力を賜りたく，よろしくお願い申し上げる．

教育・資格委員会

委員長　佐藤 浩一郎

2019年度は，学会活動方針である「研究・教育基盤の向上」を目的とした「教育」の活動を主として推進していく．

本年度は，デザイン学における教育や研究に関わるニーズを学会員から抽出し，それらに対応した講習会やセミナーを検討していく．また，合わせて，2019年秋出版予定の『デザイン科学事典』をはじめとした教科書的な市販教材を用いた講習会やセミナーの実施の検討も進めていく．さらに，他団体との連携やリカレント教

育を視野に入れたセミナーの検討も行い，社会的貢献と学会の知名度向上を目指していく．

広報委員会

委員長　大島 直樹

本年度の広報委員会は，引き続きWeb サイトにおける広報活動の強化に努める．

具体的には，昨年度実施できなかったWebサイトの見やすさや使い勝手を向上させるため，部分的なリデザインを検討する．また，支部・部会・委員会のニュース投稿をさらに活性化するために，Web サイトへの投稿方法やマニュアルの周知を図る．さらに広く成果を広報するための英文ジャーナルページの新規追加も推進する予定である．

財務委員会

委員長　生田目 美紀

引き続き，一般社団法人としての学会運営に伴い，監事ならびに外部監査を委託している公認会計事務所と連携して，学会会計の厳正な管理を行う．また，本部事務局とも密接に連携し，大会・支部会計の適正化を推進する．

今年度の活動計画として，以下の４点に注力する．

・法人法に即した学会会計の適正化
・税務に対する理解と適切な会計処理
・財務基盤の健全化への取り組み
・学生会費，大会参加費などの見直し

市販図書企画・編集委員会

委員長　加藤 健郎

本委員会は，これまでの活動方針を引き継ぎ，「デザインの知を支える学会の図書企画・編集」に取り組んでいきたいと考えている．主な活動として，最優先事項である日本デザイン学会編『デザイン科学事典』の編纂（平成 31 年 10 月刊行を予定）を進めていく．また，市販図書の継続的な出版のために，デザインのテキストシリーズの企画を検討するとともに，それらをイベントやセミナーの企画につなげるように取り組んでいく予定である．関係者の皆様方には，今後ともご協力をお願いしたい．

学会各賞選考委員会担当

担当理事　山中 敏正

今年度の学会各賞審査委員会は以下の構成で実施致します．

委員長： 庄子晃子
委員：山中敏正，青木弘行，杉山和雄，原田昭，松岡由幸，宮崎清，宮内悊，森典彦

Design シンポジウム担当

担当理事　小林 昭世

本シンポジウムは，日本デザイン学会をはじめ，デザインや設計を上位概念とする日本機械学会，精密工学会，日本設計工学会，日本建築学会，人工知能学会により，デザイン・設計領域における知を総合する目的で会議を隔年開催している．2019 年度は，11/16-17 に当学会が幹事学会として，慶應義塾大学において，基調講演，研究発表，パネルディスカッションなどによる会議を開催する．なお，前日にデザイン関連学会シンポジウムを連携して開催する。

本学会からの委員は，松岡由幸，加藤健郎，小林昭世，永井由佳里，小野健太．

IASDR担当

担当理事　山中 敏正

IASDR2019 Manchester Metropolitan University 大会を実施する年である．5 月 14 日にオンラインで理事会を開催した。理事の移動などがあり，現在の理事会の体制は以下であることを確認した．

Lin-Lin Chen (president)
David Durling (vice president)
Toshimasa Yamanaka (secretary)
Fong-Gong Wu (treasurer)
Tek-Jin Nam
Byung-Keun Oh
Kenta Ono
Dorian Marjanović
Panos Y. Papalambros
Martyn Evans

また，IASDR2019 の投稿状況が以下の通り報告された．

Full-papers: 237
Short-papers: 98
Workshops: 22

今年は会長/役員の改選を控えており，選挙のルールを確認し，2021 の開催地を決定するプロセスを粛々と進行させる．

日本学術会議 第一部/人文・社会科学

担当理事　小林 昭世

日本デザイン学会を含む16学会よりなる藝術学関連学会連合は，シンポジウム開催を主な活動としている．2019年度は，意匠学会をオーガナイザとして，6月8日(土)，国立国際美術館（大阪）にて，第14回公開シンポジウム「アマチュアの領分」を開催する．

横断型基幹科学技術研究団体連合

担当理事　薗澤 雄亮

昨年度に引き続き，コトつくり至宝発掘事業として「コトつくりコレクション」の第 2 回選出が実施される予定であり，コトつくりコレクション選出事業は日本デザイン学会の活動目的と親和性の高いことから，学会としても積極的に関与していく予定である．なお，毎年実施している横幹連合コンファレンスの本年度大会は 2019 年 11 月 30 日，12 月 1 日に長岡技術科学大学にて開催される予定となっている．

機械工業デザイン賞審査委員会担当

担当理事　小林 昭世

日刊工業新聞主催の機械工業デザイン賞に日本デザイン学会賞が 2018 年度より創設された．2019 年度は３月までに応募を行い，７月までに審査を行う．

第１支部

支部長　横溝 賢

第 1 支部は，秋季企画大会と合同で第 10 回目の支部大会を 11 月 8 日（金）～10 日（日）に山形市（幹事校・東北芸術工科大学）で開催する．山形での秋季企画・第 1 支部合同大会は，「おいしいデザイン」をテーマとしている．この大会プログラムでは，中山ダイスケ氏（東北芸術工科大学学長）による講演，ライトニングトーク，学生プロポジション，そして開催地山形市内をブラ歩きするフィールドワーク・ワークショップを実施する予定である．第 1 支部における「地域を味わうデザイン活動」を，支部会員だけでなく秋季大会参加者や山形の市民活動家にも開き，地域デザインの可能性を参加者らと共に考える研究交流を促進する．本大会の開催概要は詳細が決まり次第，Web などで告知する．

また，昨年度は新たに岩手県（岩手大学）との活動連携が構築された．本年度は，第１支部との結びつきが弱い，福島県との活動連携を模索し，支部内の会員間交流の活発化や新規会員の増加を目指したい．

第２支部

支部長　平松 早苗

東京オリパラ 2020 の前年の年となり，「おもてなし～コミュニケーションデザイン」の実践の場として，昨年度開催の調整がつかなかった日本の伝統芸能の施設への見学を，引き続き検討し開催する．

2018 年度企画の教育成果物を紹介する小冊子「教育成果集」の制作は本年度も実施を予定している．本年度は応募の範囲を学会全体へと広げ，より多くの作品を紹介したいと考えている．作品の応募について，会員の皆様のご協力を賜りたく，よろしくお願い申し上げる．

第３支部

支部長　黄 ロビン

第３支部では，今年度も会員の活動・研究を相互に知り合い交流を深めるため，支部研究発表会と懇親会を実施する．発表内容の梗概集と支部会員の研究報告論文を一緒に，ISSN を取得した「一般社団法人日本デザイン学会第３支部研究発表会概要集」にまとめ，国立国会図書館などに収録する．この支部研究発表会では，学生の口頭発表とポスター発表を対象とし，優秀発表賞を設けて表彰する．

次に，学会会員が所属する学校の卒業研究などに対し，大学院生２名/学部生２名に「年間研究奨励賞」を贈る．

また，今年度は研究発表会会場校の新規開拓と幹事会メンバー増員等の強化体制を進めていきたい．

第４支部

支部長　久保 雅義

第四支部では，本年度の春季大会（名古屋），秋季大会（山形），各種部会に注力する．また，従前からの①ユニバーサルデザイン研究会，②インタラクションデザイン研究会，③地域文化研究会，④近畿・中国（四国）地区の学術研究活動などの研究活動を引き続き推進していく．

本年度支部全体活動として来年 1 月に支部研究発表会を予定している．さらに，特別講演会を秋季～冬季にかけて 2 回程度開催し，色々な論議を深めたい．　支部研究発表会，特別講演会は，ホームページなどで案内し，支部構成員以外の参加も歓迎する．

第５支部

支部長　田村　良一

2019（平成 31）年度は，今後の継続的かつ発展的な支部活動の実現に向けて，2006（平成 18）年度から実施してきた「研究発表会」と 2008（平成 20）年度から実施してきた「学生デザイン展」のレガシーを活かしつつ，一つの発表会に統合するとともに，電子冊子（PDF 集）から Web サイトを活用したデジタル化を試みる予定である．

具体的には，11 月，西日本工業大学を会場として，「研究作品発表（仮称）」および「研究作品報告（仮称）」の 2 発表区分とする「2019 年度第 5 支部発表会」を実施する．前者は通常の研究発表大会における口頭発表・ポスター発表に準じるものとし，英文概要および研究や作品の最終成果を求めるものである．後者はライトニングトークに準じるものとし，研究や作品が未完であっても発表練習や聴講者との意見交換などを目的とするものである．また，これまでの電子冊子（PDF 集）の代替として，運営関係者の編集作業に伴う負担軽減，さらに発表者の投稿作業の容易化かつ投稿コンテンツの多様化を目的として，「MediaWiki」を利用する予定である．

多くの皆様の本発表会への参加を歓迎する．詳細が決まり次第，第５支部から Web 等を通じて，会員の皆様へご案内を差し上げる予定である．

本部事務局

本部事務局長　佐藤 弘喜

法人化後の体制が軌道に乗りつつあることから，今後はかねてより懸案となっている諸課題に取り組んでいく必要がある．本部事務局として検討すべきと思われる問題には以下のような事項があると考える．

・会員数減少傾向に関する対策
・学生会員の正会員移行率の向上
・若手会員による学会活動の活性化
・法人化後の予算運用方法の検討
・事務局運営の効率化

また従来同様，引き続き各委員会や研究部会，支部活動に対するサポートなどを推進し，学会活動を支援していくことは言うまでもない．事務局は学会の窓口として，今年度も会員の皆様へのサービスを第一に考えた対応を心がけていく方針であり，関係各位のご理解とご協力をお願いする次第である．

教育部会

主査　金子 武志

年間テーマは特に設定せず関係の方々からのリクエストや旬な話題に応じたフレキシブルな研究会を年２～３回実施する予定．
基本的には会員，非会員問わず誰でも自由に参加できる場を準備している．
私たちはデザイン教育を起点に「教え学ぶ」という人々の根本的なあり方を広い視野で見つめて行く必要性をここ数年感じている．
「デザイン」が「もの」に対する視点から「こと」「こころ」「関係性」にまで広がりをみせ，同時に非常に多岐にわたるジャンルや領域を内包していることから現在では学校教育という枠を越え，家庭，地域，企業，各種メディアなど，社会のあらゆるところに教育の場と機会が存在する時代となった．
今や「デザイン」は一部の専門家の所有物ではなく，そのための教育も（教えることも学ぶことも）様々な立場の人達と共に考えていく時代である．「デザイン」が「自然」「社会」「人間」を有機的に繋いでいく術であるとすれば，デザインの仕事に直結するデザイナー教育に限らず，創造性をはぐくみ人間性を高める教養としてのデザイン教育もある．こどもや老人のためのデザイン生涯教育，一般企業の中のデザイン教育，人々が豊かに暮らすための地域市民のためのデザイン教育．．．．これらについて現在の教育機関を越えたところで誰もが自由に語り合えることを目指していきたい。今年度も視野を拡げたテーマを見つけて皆さんと対話したいと考える．

環境デザイン部会

主査　清水 泰博

本年度の環境デザイン部会は，昨年度の年間テーマである「サスティナブル環境デザイン」を継続してメインテーマとし，現代日本の切実なテーマである「人口減少時代の環境デザイン」のあり方を考えることを予定している．そこでは都市部の都市環境デザインの実情の考察と今後の方向性を考えると共に，過疎化が進む地方の実態とそこで必要な環境デザインのあり方を考えるものでもある．そこには従来の環境デザインにプラスされた新たな考え方が必要とされている．SNS 社会においてコミュニティのあり方も変貌してきている現代，環境デザインの見地から地域コミュニティを如何に取り戻すかも課題となっている．

リノベーションのあり方、地方の農業，林業と環境デザインの接点を考えること，廃棄された農地の利活用や，国産木材の利用法など，より広範囲な持続可能な環境デザインを考えることをテーマとする．

活動としては設定する年間テーマに従った，見学会や講演会などの企画・実行を予定している．特には，部会員の企画・実行に関わる様々な支援に努め，部会の活性化を図る．創設時から続く部会の会報「ED Place」は，これまで同様に，年間３回の発行を予定している．電子化による発行を拡大深化するため，部会内はもちろん，部会外への発信なども試行する．出版計画も継続的に企画化し，書籍などの発行準備を予定している．また，法人化された本学会の中で，本部会の位置づけや活動，運営，体制の在り方などを規約として明らかにする．

これら予定は，６月の部会総会で協議して具体的な内容を定めるが，積極的に環境デザインを考えるという部会の趣旨の元，上記の他にも追加企画などを検討していく所存である．部会員相互の研究の深化と実行を中心に，学会内外の協力を得て，本年度も活発に進めていきたいと考えている．

家具・木工部会

主査　新井 竜治

●春季研究発表大会、部会テーマセッション
2019 年度、第 66 回春季研究発表大会において、「伝統的資源と現在学（家具・木工部会）」というタイトルのテーマセッションを開設していただきたくことになった．これは家具・木工に関する最新の研究成果の発表機会となる．
●総会
2019 年度も，春季研究発表大会に合わせて，家具・木工部会のテーマセッションの前後に総会を開催する．議案は(1)部会主査選任，(2)特集号，(3)その他の行事である．
●特集号
2019 年度は、家具・木工部会による『デザイン学研究』特集号（2019 年 10 月号）の発行を予定している．メインテーマは「家具のデザインと技術――モノのデザインのこれまでとこれから」である．2018 年度中に，同特集号の企画委員会を開催して，家具・木工部会内の公募により選出した 10 名の執筆者に論文を依頼してある(詳細は 2018 年活動報告欄参照)．特集号の掲載論文の質を担保するために，執筆者から提出された論文（5 月 7 日〆切）について，企画委員会による閲読を実施する．閲読後、執筆者による修正を経た全論文 10 編を主査が取りまとめる．その後，執筆者各人と印刷所との間で紙面校正を行う．また，第 66 回春季研究発表大会時に企画委員会を開催して，全体構成・目次・表紙を決定する．本特集号は，2019 年 10 月末の発行予定である．
●その他

その他の行事については，総会において審議する．

デザイン理論・方法論部会

主査　松岡 由幸

本年度６月以降においては以下の活動が挙げられる．

６月には名古屋市立大学で開催される春季大会ではテーマセッション「多空間デザインモデル，デザイン理論・方法論」が企画されている．

また，７月には，慶應義塾大学において，デザインの理論や方法論に関する研究・作品発表会として「デザイン塾」を開催する予定である．当塾は，毎年，国内外からデザイナー，設計者，実務者，および教育者など様々な領域の方々にご参加いただいている．

さらに，デザイン科学の基盤構築を結実する『デザイン科学事典』（丸善出版）の秋頃出版に向け，最終の編集作業を行っている．具体的な出版日程については決定次第お知らせする．なお，同事典をテーマとした春季大会オーガナイズドセッション「デザイン学とデザイン科学，その本質－『デザイン科学事典』編纂が意味するもの」も開催予定である．

子どものためのデザイン部会

主査　工藤 芳彰

例年同様，春季研究発表大会テーマセッション「子どものためのデザイン」（７年目）の実施，およびKDSS2019（感性デザインセミナー，８月下旬予定）での共同ワークショップを企画する．また，３年ぶりとなる特集号「子どものためのデザイン04（仮）」の企画編集に取り組む予定である．執筆をご希望の方は奮ってお知らせ願いたい．部会サイトは以下のとおりである．研究や部会員の活動に関して積極的に情報共有したいので，ご希望の方は主査または幹事までお知らせ願いたい．

（ https://www.facebook.com/design.for.children.jp/）

タイムアクシスデザイン研究部会

主査　寺内 文雄

昨年度に引き続き，当該分野と関連の深い「デザイン理論・方法論研究部会」と連携するとともに，様々な領域の方々と議論を進めていく．それらを通して，タイムアクシスデザインの本質や課題の明確化や具現化するための手法を提案していく予定である．本年度は特に，「没頭」や「熱中」といった「ハマる」行為に着目した精神的価値の時間変化モデルの基礎構築やそのメカニズムに焦点をあてた研究活動を推進していく．

また，６月に名古屋市立大学で開催される春季大会にて，テーマセッション「タイムアクシスデザイン」と同セッション内でのキーノート講演を企画しており，多くの方々との活発な議論を期待している．

バイオ・メディカルデザイン研究部会

主査　國本　桂史

2019年度は，6月の春季研究発表大会においてオーガナイズド・セッション「先端医療からのヒトへのアプローチ」における発表と活発な議論から学術的視点に立ったメディカルデザイン：臨床医療デザイン学の検討の場とする．

8月 1日に、札幌にて開催される日本病院学会において「HOSPITAL 5.0」と言うテーマでセミナーを行なう．

8月25日に，名古屋で開催される日本ヘルスケアダイバーシティ学会全国大会：大会テーマ『ダイバーシティと未来：ヘルスケア・メディカル・デザイン・人・幸福」において特別講演とシンポジウムを予定している．デザイン分野以外の専門家からの意見をいただき臨床医療デザイン学分野での問題解決手法を新たにしていきたいと考えている．

引き続き、バイオメディカル研究部会では医学、生物学、工学とデザイン学の境界領域として考え　られる広い範囲のテーマに興味を持つ研究者、技術者、実務者のための場となることを目的とし

（１）バイオメディカルデザインの枠組みづくり

（２）バイオメディカルデザインの方法論や実践を通しての手法の確立

（３）バイオメディカルデザインの実践について研究

を行う予定である．

創造性研究部会

主査　永井　由佳里

例年どおり研究会や研究交流を国際規模で実施し，日本学術会議，the Design Society等と連携した活動を行う．また，関連する研究分野である，脳科学，認知科学，社会科学の学会や研究者と共同研究等を計画的に進めており，成果を公開していく予定である．

また，SDGsの達成とデザイン創造性の議論やSTEAM教育の推進など，最新の研究動向に即した情報を発信し，会員と共有する．若手研究者や博士後期課程学生を対象にしたコンソーシアムを形成し，イノベーション創出に欠かせないデザイン学の拠点として，創造性の切り口で多様な研究アプローチを推進する．

農業デザイン研究部会

主査　禹　在勇

日本の農業は、第六次産業の展開，農業用機器の研究開発，農村ツーリズムによる地域振興，バイオテクノロジー，農業支援を通じた国際協力というかたちで，農作物の生産以上の総合的な業種となっている．

近年は「スマート農業」としてIoT，ICTを活用した農業のあり方が提示されている．

そこで，2016年，第63回春季研究発表大会（長野大学）で農業をテーマとしたセッションが企画された．その内容（特集号『農業のすすめ』に収録）

は農業をデザインとして見直す取り組みだった．それを機会に農業を通じて産業から生活までを総合的，横断的に研究，計画する場として「農業デザイン研究部会」の設立し，日本の農業界が抱える諸問題点など，デザイン学を生かした農業振興に寄与することを目的とする．

当面の計画として，本研究会はこの路線を引き継ぎ，省庁や地方自治体などの公的機関，農業用機器メーカーと連携し，「農業デザイン」の学術基盤の整備，基礎研究の開発を行う．

農業デザインに関心を持ち，部会の活動に『共感』できる方は，長野大学石川義宗までお寄せください．

(yoshimune-ishikawa@nagano.ac.jp)

2019 年度 予算

〔一般会計〕

■収入の部

項目	予算額	予算額内訳	
2018年度繰越金	15,719,567		15,719,567
1 会費（現）	16,629,600	正会員@13,000×1,483名×0.8 (徴収率)	15,423,200
		学生会員@6,500×232名×0.8 (徴収率)	1,206,400
2 会費（新）	2,090,000	正会員@18,000×80名（一般　入会金：5,000，年会費：13,000）	1,440,000
		学生会員@6,500×100名 (入会金：免除，年会費：6,500)	650,000
3 賛助会員費（現）	920,000	30件	920,000
4 賛助会員費（新）	30,000	@30,000×1件	30,000
5 年間購読会員費（現）	1,200,000	@25,000×48件	1,200,000
6 年間購読会員費（新）	25,000	@25,000×1件	25,000
7 広告費	50,000	@50,000×1件	50,000
8 学会誌掲載料	2,675,000	論文掲載料（(@40,000×8報)×6冊）	1,920,000
		作品集審査費（@3000×25件）	75,000
		作品集掲載費（@40,000x15報）	600,000
		2018年度作品集掲載費（@40,000x2件）	80,000
9 春期研究発表大会	5,000,000		5,000,000
10 秋季企画大会	500,000		500,000
11 雑収入	750,000	学会誌売上	50,000
		N IHELS還元金、補助金、預金利息等	700,000
		その他	0
		寄付	0
計	**45,589,167**		**45,589,167**

■支出の部

項目		予算額	予算額内訳	
本部事務局＆理事会関係	**11,139,280**			
1 本部事務局経費		9,939,280	消耗品代	300,000
			運営経費（春季，秋季大会出張費用含む）	300,000
			職員給与（@180,000×12,@230,000×2）＋@150,000×12, @75,000×2)	4,570,000
			通勤費（@6,000x12）＋（@13,820x4, @6,000x12）	199,280
			施設設備費	250,000
			通信費及び電話代金	700,000
			印刷代	200,000
			雑費	200,000
			会費引き落とし経費	150,000
			賃貸料（@150,000×12ヶ月）	1,800,000
			光熱費	140,000
			アルバイト雇用費および時間外手当	700,000
			経理業務コンサルタント料	250,000
			租税公課	10,000
			法人税、住民税及び事業税	70,000
			労災保険料	100,000
2 理事会運営費		800,000	会場借用料、理事会運営経費等	800,000
3 選挙経費		400,000	選挙に関する費用	400,000
学会誌審査・編集関係	**1,465,000**			
4 論文審査委員会経費		700,000		700,000
5 作品審査委員会経費		275,000		275,000
6 学会誌編集・出版委員会経費		100,000		100,000
7 特集号編集委員会経費		390,000	第27巻1号編集委員会	130,000
			第27巻2号編集委員会	130,000
			第28巻1号編集委員会	130,000

学会誌印刷・通信関係	**17,491,000**			
	8　印刷費	15,991,000	2018年度論文集（1冊）	300,000
			2018年度特集号（2冊）	5,000,000
			2018年度作品集（0冊）	0
			論文集（@30,000×10報）×6冊	1,800,000
			特集号（@2,500,000×2冊）	5,000,000
			作品集（@35,000×20報）	700,000
			論文集・作品集のオンディマンド印刷費（@1000×7冊+@3700×1冊）×130件	1,391,000
			概要集ＵＳＢ（700セット），プログラム印刷費（700冊）	1,300,000
			封筒代	500,000
	9　出版物通信費	1,500,000	郵送料・事務代行料金	1,500,000
大会関係	**5,860,000**			
	10　2019年度春期研究発表大会	3,000,000		3,000,000
	11　2019年度秋季企画大会	1,000,000		1,000,000
	12　2020年度春期研究発表大会（準備金）	500,000		500,000
	13　春季大会概要集編集委員会経費	450,000	活動費	50,000
			演題登録システム（PASREG）利用料，データ変換料	400,000
	14　春季オーガナイズドセッション費用	320,000	@80,000×4件	320,000
	15　学会セミナー費用	100,000		100,000
	16　総会準備経費	30,000	総会経費、委任状・資料印刷代	30,000
	17　学会各賞選考委員会経費	100,000	資料作成費・記念品代	100,000
	18　国際デザイン会議	60,000	国際デザイン会議会費　500＄）	60,000
			国際デザイン会議活動費	0
	19　Designシンポジウム補助費	300,000		300,000
委員会関係	**1,400,000**			
	20　委員会経費	200,000	共通費	200,000
	21　研究部会共通経費	400,000	共通費（現行16研究部会）	400,000
	22　支部活動補助費	750,000	@150,000×5支部分	750,000
	23　市販図書企画・編集経費	50,000	編集費	50,000
広報関係	**250,000**			
	24　広報費	250,000	大会ポスター・通信費，パンフレット作成費	200,000
			ホームページ管理・運営	50,000
その他	**7,983,887**			
	25　学協会関連	305,000	学術会議活動費（@30,000＋@30,000）	60,000
			藝術学関連学会連合シンポジウム分担金	15,000
			日本工学会活動費	10,000
			日本工学会会費	40,000
			CPD協議会会費	50,000
			横断型基幹科学技術研究団体連合会費	70,000
			横断型基幹科学技術研究団体連合活動費	30,000
			デザイン関連学会	30,000
	26　予備費	7,678,887		7,678,887
	計	**45,589,167**	**45,589,167**	**45,589,167**

名誉会員証贈呈

101 号　　青木　史郎　氏

102 号　　石川　善美　氏

103 号　　石村　真一　氏

104 号　　須永　剛司　氏

105 号　　坪郷　英彦　氏

106 号　　山内　勉　氏

107 号　　山田　弘和　氏